

県内の戦争遺跡シリーズ(1) 南国市 えんたいごう ～掩体壕～

今回からしばらく県内の戦争遺跡に関わる連載を特集していきたい。第1回は、南国市に残存する「掩体(えんたい)」を取り上げていきたい。

「掩体」とは、飛行機の格納庫を指し、敵の攻撃から味方の飛行機を守るための構造物である。構造物の種類は、鉄筋コンクリート・木材や竹・土等様々な物で造られている。文化財指定されている「掩体」は、全国的に千葉県茂原市11基、同県匝瑳市(そうさし)4基、大分県宇佐市10基、本県南国市7基が現存している。



↑「3号掩体」(左)、「前浜掩体群」位置図(右、南国市教育委員会作成案内看板引用掲載)

(1)南国市前浜地区に7基残存

高知龍馬空港滑走路の西側、南国市立大湊小学校北側及び西側に「掩体」は7基残存している。香長平野の南端に位置し、全国的に有名な弥生遺跡「田村遺跡」の中にある戦争遺跡である。海に近く、南海トラフ地震が発生すれば大きな津波が来襲すると思われる。故に周辺には、津波避難タワーが点在する。

南国市教育委員会が作成したパンフレット「掩体は語る(平成29年3月・4版)」から抜粋し、第1号～第7号までの「掩体」について説明を掲載する。

- 【1号掩体】残存した他の6基が東または南向きであるのに対して、この「掩体」は西向きになっている。米軍グラマンの機銃掃射により大小約60個の弾痕が残る。
- 【2号掩体】旧前浜公民館(現在は避難タワーが建てられている)のすぐ西隣りに位置する。
- 【3号掩体】前面にツタが繁茂し、県道のすぐわきにあり、目につきやすい。
- 【4号掩体】他の「掩体」と比較すると一回り大きく、幅44メートル、奥行き23メートル、高さ8.5メートルの巨大な「掩体」である。
- 【5号掩体】入口に戦後、農機具倉庫として使用された形跡がある。
- 【6号掩体】県道東側に位置し、県道からは見えにくい。
- 【7号掩体】大湊小学校の北側に位置し、戦後に後部を打ち抜いて用水路を通してしている。

(2) どうやって造ったか？

「掩体」と同規模の巨大な土饅頭をまず造る。大勢で上部に上がり、土を踏み固める。固められた土の上にムシロやセメント袋を敷き詰め、そこへセメントを流し込み、塗り固める。セメントが固まったら、中の土をすべて取り除く。こうして「掩体」のドームが出来上がる。作業していたのは、地元の中学生やその母親・高知刑務所受刑者・朝鮮半島から強制連行された人々であった。

(3) 消えた「三島村」

昭和 16 年(1941)1 月～19 年(1944)にかけて、国に強制的に三島村は買収された。軍用飛行場を建設するためである。戦争に反対する者は、皆「非国民」として罰せられたため、だれも反対することができず、先祖伝来住み慣れた故郷を地域住民は追われた。物部川の洪水避難のための避難場所として利用された命山も削られ、263 戸・約 1500 人の三島村は地図上から消え去ったのである。

(4) 前浜地区「掩体」の南国市史跡となる！

平成 18 年(2006)2 月 21 日、これらの 7 基の「掩体」は、「前浜掩体群」として市の史跡になった。土佐清水市にも「第 132 震洋隊越基地の格納壕跡」「松尾女城鼻監視哨跡」「呉海軍警備隊足摺探信所跡」など多くの戦争遺跡が残存している。また、当時使用した防空壕跡も点在している。これらを市の史跡として、戦争の記憶を後世に伝えていくことや、平和学教材として学校教育などに活用していくことが大切である。



↑南国市立大湊小学校の北側に位置する「第 7 号掩体」(左)とその内部構造(右)

内部の壁には、ムシロやセメント袋の跡が残っており、これを造った過程をある程度推測することができる。

【編集後記】

気が付けば7月も後半になっていました。毎日うだるような暑い日が続きます。秋田県では豪雨災害により大きな被害が出ている状況でテレビ報道が連日続いております。梅雨明けはいつになるのでしょうか。待ち遠しいところです。

さて、来月 8 月 19 日(土)午前 10 時から、土佐清水市中央公民館 3 階多目的ホールにて、市史編集委員で土佐清水市人権教育研究協議会会長・浜岡篤氏による講演を実施します。史同好会が主催します。主催：郷土史同好会、共催：土佐清水市教育委員会。市民の皆様是非ご参加ください。多くの皆様の出席をよろしくお願いいたします。(田村)